

JD Farag 牧師 中東アップデート 2017 年 12 月 17 日公開

パレスチナの大義

今日のアップデートでお話しする内容は、私にとっては、個人的にとっても衝撃だった事です。私は、パレスチナ人の母親とエジプト人の父親の間に生まれ、自分はパレスチナ人だと信じて育ちました。その後、私はイエス・キリストによって救われて、神の御言葉を読むうちに、真理を知ったのです。その真理とは、“パレスチナ人”なんてものはない、という事です。今日は、それについてお話しします。つまり、エルサレムに関して、道理の通らない主張をするパレスチナが、いかに不当であるかについて、です。パレスチナ人などというものも、パレスチナ国家などというものも無い、ということを証明する、否定できない証拠を、これから提示していきます。お付き合いいただければと思います。“パレスチナ”という名前が、どこから来たのか、あの地がなぜ、“パレスチナ”と呼ばれるようになったのか、“パレスチナの大義”と呼ばれるものは、一体何を目的としているのか、について、説明したいと思います。それから、エルサレムに関する、これらすべてのサタンの口撃の裏にあるもの、まさに、これらはサタンの、その裏には何ががあるかについて、さらに言えば、もっと重要なのは、これらの事が、今日の私たちにどう関わっているのか、ということについても、お伝えしたいと思います。

まずはこちらの Breaking Israel News の記事からです。ホワイトハウスによる、パレスチナ大統領のマフムード・アッバース批判についてです。

——彼は、アメリカ合衆国による、エルサレムはイスラエルの首都である、との認識に対して、「このような口撃は、平和を何十年にもわたって妨げる事になる」と国連で発言。アメリカの叱責は、水曜日のアッバースによる発言の後に発表された。アッバースは、「パレスチナは、今後、アメリカが関わる和平協議を一切拒絶する。」と言い、また、「エルサレムが、パレスチナの首都であると認識されるまで、地域の平和も、安定もない。」と脅迫した。アッバースのコメントは、トランプによる「エルサレムはイスラエルの首都である」との認識に反応して、トルコの大統領レジェップ・タイイップ・エルドアンが開催した、イスタンブールのイスラム協力機構会議の中で発せられた。——

金曜日、Times of Israel が報道したのは、アッバースの脅迫に加えて、エルドアンが自身の脅迫も加えて、「ムスリム諸国は、トランプによるエルサレム宣言の取り消しを、国連に求める」と発言。今朝のニュースによれば、国連はすでに、1週間半前のこのアメリカ大統領による宣言を、取り消すために動き始めているとのことです。57か国のムスリム・アラブ諸国が参加した、イスラム協力機構の首脳会議の後、エルドアンはコメントを発表して宣言しました。よく聞いてください。

——「東エルサレムは、パレスチナの首都である。」と言って、世界にパレスチナ国家を認識するよう急ぎ立てた。エルドアンは（興味深いことに）、自身を「パレスチナの大義のチャンオン」と見なし、水曜のイスラム協力機構首脳会議で、イスラエルを「占拠者およびテロ」と呼んで非難した。——

イスラエルが、です。パレスチナ人の土地を、彼らが占拠している、と。そして、彼らがテロリストだそうです。彼ら、ユダヤ人が。イザヤが言った言葉を思い出しませんか？

“災いだ。悪を善と言い、善を悪と言う者は。”（イザヤ 5:20）

誰か、水曜日の Jews News の記事を、エルドアンに伝えなければなりません。タイトルは、「おっとっ！アラブ人の歴史家、パレスチナ人など居ないと認める。」

実は私は、この記事が伝えている内容の動画を観ましたが、このアラブ人が、私の母語である、アラブ語で言っていたのです。それに英語字幕がついていて、あれは驚愕でした。彼は、基本的に真実を語っていたのです。パレスチナ人なんてものなどない、と。彼らはエジプト人です。ちなみに、ヤーセル・アラファトは、

エジプト人だったんですよ。ご存知でしたか？彼は、パレスチナ人なんかじゃありませんよ。エジプト人です。私の父親と同じ、エジプトのアレキサンドリア生まれの、エジプト人です。

ともかく、この見事な記事をお読みしましょう。ぜひ全文をお読みください。

——我々の時代における、最も頑固で最も高くついた不真実は、ガザとパレスチナ自治政府のアラブ人たちの、イスラエルのユダヤ人たちに対するジハードが、先住民族による、独立を求める国民問題である、という概念だ。事実がどうであろうと、嘘はあくまでも貫かれ、国際援助に何十億ドルと費やされるほどだ。そして、その政治的名声の為に、これに関わる者が、このすべては政治的な宣伝行為以外何物でもないと認める事を、どんどん困難にしている。バルフォア契約の前、1517年からのオスマン帝国による支配が、1917年に終わった時、現在のパレスチナ人で知られる人々は、存在しなかったのだ！「我々が現在知っているパレスチナ国境も、我々が現在知っている、パレスチナ人という政治的な身分も無かったのだ。」と、歴史家 Abd-Ghani は、11月1日に、公式パレスチナテレビで認めた。このアラブ人歴史家によれば、1917年には、パレスチナ人なんてものは存在しておらず、“先住パレスチナ人”は、後になって作られたものだという。ハマスの内務大臣および国家安全保障大臣である、Faith Hammad は、Al-Hekma テレビで、2012年3月に次のように発言している。「兄弟よ。パレスチナ人の半分はエジプト人で、もう半分はサウジアラビア人だ。パレスチナ人とは誰だ？我々には、Ai-Masri と呼ばれる家族がたくさんいるが、（アラブ語で Masri とはエジプト人の事）エジプトにルーツのある者だ（エジプト人！）彼らは、アレキサンドリア出身か、カイロ出身だろうが、我々はエジプト人だ！パレスチナ国立博物館に、歴史的遺物が無いのにはわけがあるのだ。」——

皆さんに、ぜひ見てほしかったもの、また別の機会に持ってきますが、フェイスブックで見たある投稿に、人々が博物館で立ち止まって、何もない白い壁を凝視しているのです。その下には、「パレスチナ歴史考古学博物館」と書いてあって、人々が空白を見つめているのです。何もないから。

もう一つ。昔お薦めした本ですが、これは「ベストの中の一冊」ではなくて、私がこれまで読んだ中の「最高の一冊」です。私にとっては、非常に気づきとなった一冊ですが、前もって言うておくと、これは読んで楽しい本ではありません。これは、忍耐して読む本で、私個人的には、自分がパレスチナ人だと言われて育ちましたから、私は途中で本を置いて…、実際は本を投げつけて、離れました。とにかく恐ろしくて。パレスチナの神話について、実によくまとめられています。Ramon Bennett 著、アマゾンで購入可能です。タイトルは、「Philistine The Great Deception (パレスチナ 大きな欺き)」ここに書かれている事を、少しお分かちします。

——西暦130年、ローマ帝国ハドリアヌスは、神話の神ユーピテルにちなんで、エルサレムをアエリア・カピトリナと改名した。ローマ帝国は、アエリア・カピトリナをエルサレムの名前とし、約束の地を、シリア・パレスチナと改名した。ユダヤ人との関係を消滅させる為に、この地の名前を変えたのだ。西暦7世紀に、ムスリムがパレスチナを占拠した後、アエリア・カピトリナの名は、徐々に使われなくなって行った。そして時代と共に、古代ペリシテ人の地、ラテン語のペリシテは英語化され、パレスチナとなった。この名は、このようにして始まったのです。この地は、パレスチナ人のものだったから、パレスチナと呼ばれたのではなく、ローマ帝国と、また特にその後のムスリムが、ユダヤ人とエルサレムの繋がりを主張する、あらゆる歴史や証拠を根絶するために改名したのです。——

先週お話ししたので、今日はお話しませんが、コーランの中に、エルサレムは一度も出てきません。コーランの中には、ただの一度も無いのです。

次に、古代ペリシテ人は絶滅している、という事実を理解しておかなければなりません。現在、ペリシテ人は生存していません。これは事実です。どうか皆さん、私の言葉を鵜呑みにせず、ベリヤ人のようにご自分で調べて、私が言っている事が本当かどうか、私が今日提供した証拠が本当かどうか、ご自分で確かめてください。彼らはもう存在していません。その証拠はいくつもあって、遺物が全く有りませんし、言語もありません。彼らはアラブ語を話します。なぜか？それは、アラブ人だからです。だから、彼らはアラブ語を話

すのです。彼らはアラブ人。なら、私は自分を何人だと考えるか？皆さんが、私がパレスチナ人だと呼ぶなら、それでも構いません。ただ、私はパレスチナ人とアラブ人を、同意語として考えていて、アラブ人とは、人種のるつぽです。エドム人、モアブ人、そう言った人種は全てアラブ人です。ところで、アラブ人とエジプト人の違いを言えば、エジプト人達は、アラブ人と呼ばれる事を好みません。彼らはエジプト人。分かりやすく描写するなら、犬を使うと分かりやすいのです。ジャーマンシェパードや、オーストラリアシェパードのような種類を、我々が純血種と呼び、掛け合わせたものをミックス種と呼びますね。そのハワイ名があると聞いた事がありますが。「ポイドック」そう、それがアラブ人です。雑種です。あらゆる人種が混ざり合っているのです。しかし、エジプト人は純血。なので、厳密に言えば、私は半分エジプト人で、半分アラブ人です。

約 20 年前、アメリカ本土の教会のユダヤ人の兄弟が、私に本を貸してくれたのです。彼は、ライフマガジンの見事なコレクションをそろえていて、その中から、1940 年代のものを借りました。そこで、1948 年 5 月のイスラエル国家の再誕に関する、主な記事をスキャンしました。その中の、とても興味深い記事を今から紹介します。それによって、“パレスチナ神話”もしくは“パレスチナの嘘”の証拠を提示できればと思っています。

1 つ目の記事のタイトルは、シンプルに「パレスチナ」。イスラエル国家として再誕する 2 年前、1946 年 8 月 19 日の記事です。

——つまり、ユダヤ人国家とは、何なのか？“アラブ人達”は、それを国際的に資金提供され、人為的に刺激されたエキゾチックな動きで、最終的に成功する希望は全くない、と見なしている。——

彼らは、間違いだっと思えますが。

次は、タイトル「パレスチナ問題」。これは、1948 年 2 月 16 日の記事です。

——国連は“パレスチナ”全体を 3 つに分割するべきだと決定した。ユダヤ人国家と、“アラブ人国家”、そして国際化されたエルサレム。国連は、その決断から引いているが、“アラブ人”とユダヤ人の大量の血が流されたオリーブ山からは、あまりにも遠く引きすぎて、国連の青い旗が、ほとんど見えないほどだ。これを見直そうとするなら、いかなるものでも、国連の名声に深刻なダメージを与えるだろう。それ以上に、それによって恐らく紛争が増すだろう。そうなればスターリンは、狂信的な元大ムフティ（イスラム教の指導者）の方へ誘導し、“アラブ界”全体を先導するかも知れず、それが、アメリカと国連及び、“アラブ”の地に住む 80 万人のユダヤ人にとって、大惨事になり得る。——

私が強調して言ったのには、目的があるのですが、皆さん「パレスチナ人」という言葉が、全く出てこなかったことに気づかれたでしょう。彼らは、ただの一度もパレスチナ人とは言わず、アラブ人と言いました。なぜ、記事の中に、“パレスチナ人”が出て来なかったのか？それは、あの地に、“パレスチナ人”は居なかったからです。次に、彼らはパレスチナ解放機構、すなわちヤーセル・アラファトのような人間をでっち上げようとしています。それが次に迫っています。しかしこれは、見事に実証されている事実です。「ユダヤ人が、彼らを強制的に追い出した事など、一度もない。」ちなみに、これが彼らの答えです。「ユダヤ人たちが、強制的に追い出したのだ！」していません。そもそも強制的に追い出す“パレスチナ人”が、居なかったのですから。

面白いのが、1948 年の国家再建の前から、1967 年に早送りしてください。奇跡の 6 日間戦争で、イスラエルが首都を取り戻した時です。モシェ・ダヤンが、どういうわけか、神殿の丘をムスリム達の支配下に渡しました。ちなみにこれは、預言の成就ですよ。これについては先週お話ししました。1967 年の事です。

「この時に、“パレスチナ人”が強制的に追い出されたのだ！当時、彼らがそこに住んでいたのだから。」いいえ。それはアラブ人で、私の民族が、自分たちの意思で、そこを出たのです。彼らは自分たちの意思で、そこを出たのです。強制的に追い出されたから出たものではありません。1963 年に、私の両親がアメリカ合衆国に合法的に移民してきました。その後、残りの家族の身元引受人となりました。合法的に、です。彼らは“ヨルダン”から移民してきたのです。私の祖母、母の母は、ナザレで生まれました。国家になる前の事

です。彼らはナザレ出身で、彼らはアラブ人です。パレスチナ人ではありません。そして彼らは、自分たちの意思で、パレスチナではなく、“イスラエル”を出たのです。誰も、彼らを強制的に追い出してはいません。これが真実です。

次に事実ですが、そこは、不毛の地で、廃墟、実際そこは荒地でした。Bennett氏は次のように書いています。

——何千年もの間、そこで農業を営んで来た、何百万人という数のパレスチナ系アラブ人を、ユダヤ人が追い出した、とアラブ人達は主張しているが、現代の前の時代、何百万人のアラブ人がパレスチナに住んでいた事など、一度も無い事が分かっている。さらに、アラブ人達が、そこに何千年もいなかった事も分かっている。この地に継続して存在し続けたのは、ユダヤ人だけだ。アラブ人が、何千年もそこを耕していたというより、むしろ、そこは荒地だったのだ。時代を通して、著名な作家や「Pilgrims to the Holy Land」などが、そこが、荒れた不毛の地、廃墟であったことを証明する文章を残しており、歴史家たちも、同じ研究結果を出している。——

それから彼は、これら歴史家たちの報告結果を紹介して、アメリカ人作家で、1967年に“パレスチナ”を訪れた、マーク・トウェインの言葉を引用しています。彼の言葉をよく聞いてください。「The Innocent Abroad（地中海遊覧記）」を引用します。

——ガリラヤに来た。人のいない、砂漠だ。不毛で赤茶けた山々は、その荒々しい外見からは、眩しい光が放たれる事はない。カペナウムの物悲しい廃墟。無事にたどり着いたが、全道中、ひとつこ一人見なかった。ベツレヘム、ベタニヤは、その貧しさ、その屈辱の中、今では何も無い。羊飼いたちが、夜通し羊の群れを見守った神聖なる場所。御使いたちが歌った場所。「地の上に平和が、御心にかなう人々の上にあるように！」そこには、何も生き物が生息していない。ベツサイダ、コラジンも、地上から姿を消してしまった。砂漠地帯はひっそりと眠り、猛禽類と狐の群れが住むだけだ。全てが絶滅してしまって、どちらを向いても、30マイル（48 km）以内に、村が一つもない。パレスチナは、荒布と灰の上で荒廃して醜く、そこは夢の国だ。——

Cari Hermann Vossは、その著書「The Palestine problem today Israel and its neighbors（今日のパレスチナ問題 イスラエルとその周辺諸国）」の中で、次のように書いています。

——7世紀のアラブの勝利から、1880年代のユダヤ人帰還のはじめまで、12世紀半の間、パレスチナはずっと荒地だった。古代のかんがい用水路システムは破壊され、聖書が語っている、驚くほど肥沃な大地は、不毛の砂漠へと姿を消した。——

彼はさらに、「Palestine Exploration Fund Quarterly Statement」のGunnar Edward Webbの言葉を引用しています。

——なにも見当たらないが、古い壁が少しあった。——

これはエルサレムについて語っています。

——それらの残骸はあるが、他は草やコケ、雑草だけだ。——

フランスの詩人の言葉を引用した、ネタニヤフの「The place among the nations」をBennettが次のように書いています。

——エルサレムの門の外側で、確かに私たちは、生き物を一切見かけず、生き物の声を一切聞かなかった。同じ空虚を、以前のポンペイの墓地の門で見た。完全なる永遠の静寂が、街を支配している。——

さて、どうして私は、昔のパレスチナや、今日のイスラエルに関するこれらの歴史を詳しく並べ立てて、皆さんを退屈させたのでしょうか。それは、パレスチナの大義の歴史的不当が、今日、また全く同じ形で戻ってきているからです。それに関して説明します。

パレスチナの神話が、人々を引き付けているのは、主要な聖書預言の成就です。具体的には、エルサレムを巡ってです。去年、トランプが大統領に選ばれた時にも同じことを言いましたが、当時も私は心から信じていて、今はさらに強く思うのは、トランプ大統領が、預言成就を加速させる、と言う事です。遅らせる事はありません。そして確実に、「エルサレムがイスラエルの首都である」という、彼の宣言が、これらをもたらしたように思います。エルサレムがイスラエルの首都である事に関して、今日アラブ人達が言っているのは、1940年代、イスラエルが国家になる事に関して、アラブ人達が言っていた事と全く同じです。イスラエルが国家として誕生する5年前の、1943年5月31日付、ライフマガジンに掲載された、サウジアラビアのサウード王の発言を聞いてください。

——パレスチナに関する、ユダヤ人の主張を正当化するものなど、聞いた事がない。私は、ユダヤ人を恐れもしなければ、彼らが国や権力を得るかもしれない、どんな可能性も恐れていない。アラブの地であろうと、（パレスチナではなく、彼はアラブと言っているのです。）他の地であろうと。——

それから彼はこんなことを言っています。

——これは、神が（アッラーの事を指しています）その預言者（モハメッド）の口を通して、その聖なる書の中（コーラン）で、我々に知らせてくださった事だ。——

へえ、ちょっと待ってください。では、コーランにも、預言が書かれているのでしょうか？イスラエルが再び国になることがない、とか何とか？なら、それは偽預言者になると思うのですが？分かりますか？これは偽宗教です。昨日準備をしていた時に、私が書いた文章があって、少し紹介します。

「イスラムは、サタンに操られた宗教、パレスチナの大義は、サタンに操られた問題で、神の民を滅ぼす事が目的だ。」

彼らが成功することはありません。

ところで、木曜の夜はエステル記を学んでいます。先週は3, 4章で、これがものすごく面白いのです。御心ならば次は5章ですが、予型が実にたくさんあるのです。反キリストの型のハマンは、王のところに行って、ユダヤ人絶滅の、覆す事の出来ない決定を下させます。しかし神は、このような時に、エステルを立てました。そして、彼女が民族を救い出します。イザヤ書にはこうあります。

“あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。”（イザヤ 54:17）

彼らは、いくらでも好きなだけでち上げれば良い。彼らは、いくらでも好きなだけ策略や計画を考えれば良い。しかし興味深いことに、ハマンを通して、これが真実である事が分かります。彼は、その信仰の中で、モルデカイをかけようとして建てた柱に、自分自身がかかりました。「歴史は繰り返される」と言いますが、まさに事実です。

最後に締めに入る前に、皆さんに質問です。

なぜ、これらの事がそれほど重要なのか？これらは、一体何を意味しているのか？

まず、あなたがカネオヘに住んでいようと、カイロに住んでいようと、これが重要な理由とは、エルサレムが、神の預言時計の秒針だからです。そして、それが毎日毎日、ものすごい速さで深夜に近づいているのです。また、そうしている内にも、多くの人が「エルサレムはユダヤ人のものではない。」という嘘に騙されていて、その人たちの、永遠のいのちを危険に晒しているからです。だから重要なのです。

皆さん、どうかもう少しお付き合いください。次の事をよく考えてほしいのです。もし、エルサレムがユダヤ人のものでないなら、神の御言葉、御言葉の神は、真実でなくなります。そしてもし、神の御言葉、御言葉の神が真実でないなら、私たちはずっと騙されてきたことになります。そうですよね？神には、ユダヤ人と永遠の契約があります。そうですね？そして、神はまた、私とも、あなたとも、約束されましたね？なら、もしパレスチナの大義が真実なら、つまりそれは、神が嘘つきだという意味になる。または、神は、ユダヤ人ともあなたとも、私とも交わした約束を破った事になる。もし神が、ユダヤ人を見放したというなら、お

聞きしますが、皆さんの約束は、どれくらい保証されているのでしょうか？神は、あなたとも約束されたのですから。あなたの事は見放さない、と言えますか？

結論です。もし、約束がもはや真実でないなら、イエスは「道、真理、いのち」では無い事になります。そうすると、私たちは聖書のページを、聖書から破り取らなくてはならなくなる。とんでもありません。ヨハネ 14:6 に書いてあるように、これで契約成立です。イエスは言われたのです。聞いてください。

“わたしが道であり——”

“1つの道”ではありません。

“わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません” (ヨハネ 14:6)

ムハンマドを通しては、父のみもとには行けません、彼は偽預言者です。彼は真理でなく、偽物です。彼は道でなく、彼はいのちではありません。唯一、イエスだけ。イエスだけ、唯一イエスです。

“いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入っていく者が多いのです。” (マタイ 7:13)

あなたは、まれな方ですか？それとも、あなたは多い方ですか？

イエス・キリストの福音を伝えたいと思います。救いの ABC です。皆さん、お願いですから、「彼は、いつもこれをしてから、預言アップデートを終わるんだ。」という風には流さないでください。しかし、もしかしたらもしかすると、ですよ？この中の、神の御霊によって新生している方の前に、今週、神が誰かを送られるかもしれません。そしてもしかしたら、あなたが、その人達に簡単かつ理解できる形で、イエス・キリストの福音、イエス・キリストによる救いを伝えるのかもしれませんが。オンラインで見ているあなたにも、同じです。もしかしたら、神が言っておられるのかも知れませんが。あなたの前に人を送って、機会を与えるから、その時の為に備えるのだ。そうすれば、あなたもそれがチャンスだと分かるだろう。

とても簡単です。



A=Admit/認める、Acknowledge/認識する

自分が罪人であり、救い主が必要である事を、認める。ローマ 3:10 にはこうあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」” (ローマ 3:10)

ローマ 3:23 にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず、”（ローマ3:23）

だから私たちは、新しく生まれなければならないのです。私たちは皆、罪人として生まれました。だから、私たちは霊的に新しく生まれなければ、神の国に入ることは出来ないのです。

“罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。”（ローマ6:23）

B=Believe/信じる

イエス・キリストが主であると、心で信じる。ローマ10:9-10にはこうあります。

“—あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ10:9-10）

C=Call/呼び求める、Confess/告白する

主の御名を呼び求める、もしくは告白する。これも、ローマ10:9-10で、

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”（ローマ10:9-10）

そして最後に、ローマ10:13にはこうあります。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」”（ローマ10:13）

これだけです。

「主の所に行く前に、自分の行いを正さなくても良いと言うのか？」

そうです。それは、シャワーを浴びる前にお風呂に入るようなもの。彼が、あなたの事を内外から清めてくださるのです。第一ヨハネ1:9にはこうあります。

“もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。”（第一ヨハネ1:9）

これはすごいお得ですよ。1回で2つ、ついて来るのですから。私がすべき事は、告白するだけ。1つだけです。そして神がしてくださるのは、2つ。赦し、そして、きよめて下さるのです。

祈りましょう。

天のお父様。心から感謝します。まず第一に、福音がとても簡単な事に、感謝します。子供にでも分かるほど簡単で、あなたの元に行く時、私たちは、子供のようにならなければなりません。これが複雑でない事に感謝します。あなたの元に行く前に、私たちがすべき前提条件が、妨げとならない事に感謝します。私たちがどんな状態であれ、そのままの姿であなたのもとに行ける事に、感謝します。私たちがあなたを呼び求めると、私たちは救われる事を、あなたはあなたの権威によって、その御言葉の中で約束してくださいました。ですから主よ。これをオンラインで見ている人の中に、もしくは、この教会の中に、あなたの御名を呼び求めた事の無い人がいるなら、今日、この日が、彼らの救いの日となりますように。明日ではなく、今日が救いの日となりますように。主よ、ありがとうございます。それから主よ。事が起こる前に、全て起こる事を私たちに知らせて下さって、ありがとうございます。これらの事が起こった時、私たちは信じるだけでなく、

頭を上にあげます。私たちの贖いが近づいているのが分かりますから。主よ。今年は、私たちがこの地上の、この世で過ごす、最後のクリスマスになるかも知れません。ですから、私は、私の兄弟姉妹たちも言います。マラナタ！主、イエス、早く来てください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe（英語）、「DIVINE US」（日本語）を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」
ヘブル 4：7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>
Calvary Chapel Kaneohe
47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii
訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>
筆記 by まい